

令和6年
第7回定例会議事録

令和6年7月31日

泉大津市教育委員会

令和6年7月31日(水)午前10時より令和6年第7回泉大津市教育委員会
会議定例会を泉大津市教育支援センター1階大研修室に招集した。

出席委員

| | |
|----------|-------|
| 教育長 | 竹内 悟 |
| 教育長職務代理者 | 澤田 久子 |
| 教育委員 | 西尾 剛 |
| 教育委員 | 池島 明子 |
| 教育委員 | 奥 健一郎 |

出席事務局職員

| | |
|-----------|--------|
| 教育部長 | 鍋谷 芳比古 |
| 教育部教育政策課長 | 大塚 和弘 |
| 教育部指導課長 | 藤谷 考志 |
| 教育部指導課長補佐 | 家原 慎太郎 |
| 教育部指導課長補佐 | 中出 季子 |
| 教育部指導課長補佐 | 表 一成 |
| 教育部教育政策課 | 三上 達朗 |
| 教育部教育政策課 | 高岡 愛 |

案件

日程第 1 議案第34号 令和7年度使用中学校教科用図書の採択について

議事録署名委員

教育委員 西尾 剛

※読みやすさ等のため、発言の趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

会議の顛末

○竹内教育長 令和6年第7回教育委員会会議定例会の開会宣言

○令和6年第6回教育委員会会議定例会議事録の承認

△日程第 1 議案第34号 令和7年度使用中学校教科用図書の採択について

◎教育部長（鍋谷芳比古）泉大津市立 義務教育諸学校 教科用図書選定委員長の鍋谷でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。中学校の教科用図書につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」および「施行令」に基づき、今年度、令和7年度から使用する教科用図書を採択することとされております。

それでは、令和7年度使用中学校教科用図書採択に係る今年度の取組みについて説明させていただきます。教科用図書採択につきましては、平成13年に制定された「泉大津市義務教育諸学校 教科用図書選定委員会規則」に基づき、本年4月より令和7年度使用中学校教科用図書の採択事務に取りかかりました。5月9日に「二市一町 教科用図書 選定資料作成委員会 全体会」を開催し、選定に係る調査報告書の作成に取りかかり、約1か月半の調査を経て報告書をまとめていただきました。なお、選定資料作成委員会は本市と高石市、忠岡町の二市一町で設置しており、選定資料作成委員には二市一町の中学校教頭及び教育委員会事務局の指導主事を任命し、調査員には同じく二市一町の中学校教員を種目に応じて任命しました。また、6月6日には、中学校の校長1名、保護者代表1名、教育委員会事務局2名を委員とする、第1回選定委員会を開催いたしました。7月4日には「二市一町 教科用図書 選定資料報告会」が開催され、我々選定委員は、選定資料作成委員からの調査報告を受けました。その報告をもとに第2回選定委員会で検討を行い、報告をまとめ、教育長・教育委員の皆様へ報告させていただいたところでございます。本日は、それをもとに、いずれの教科用図書を採択するか、ご審議いただくものでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

◆教育長（竹内悟）ありがとうございます。只今、選定委員長の鍋谷教育部長より説明を受けました。泉大津市教育支援センター内の教科書センターでは、広く市民に向けての教科書展示期間を設け、閲覧された際に記入いただいたご意見は、選定委員長よりすでに報告いただいております。一方、私たちもそれぞれ、この1か月半、教科書センターに通って各教科書を閲覧し、教科書の内容等についての意見交換を重ねてまいりました。本委員会では、調査員の先生方が普段の業務もお忙しい中、またタイトな日程であるにもかかわらず、熱意を持って調査研究をされた結果を尊重しつつ、選定委員会からの報告を参考にして審議を進めていきたいと考えております。

それでは、「国語」の審議に入ります。私自身も質問や意見を述べさせていただきますので、ご了承ください。選定資料報告書は、すでにお配りしておりますので、十分ご検討いただいたと思います。それでは、国語の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。

国語の教科書を採択するにあたって、大切な視点はどんなことですか。

◎指導課長（藤谷考志）泉大津市立義務教育諸学校教科用図書選定副委員長の藤谷でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

国語は言語力育成の要を担う教科として、教材を通して「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の能力をバランス良く育成する内容となっているか、また、

各教材について、学習の流れや、提案されている言語活動が分かりやすく取り組みやすいものかどうか、という視点が大切であると考えております。

◆教育委員（池島明子）各社の教科書の特徴についてお聞かせいただけますか。

◎指導課長（藤谷考志）東京書籍は、多様なキャラクターが描かれていたり、掲載作品の著者の男性・女性の割合に配慮していたり、多様性や人権に配慮している点がみられました。また、二次元コードによるコンテンツも豊富であり、朗読や動画もあることで生徒が内容をイメージしやすくなっているという特徴がありました。

三省堂は、防災に関する取り扱いがある点、巻末の資料がとても充実している点に特徴がありました。また、教材については説明的文章が多く掲載されているという点が特徴的でした。

教育出版は、漫画やアニメーションを題材に取り上げるなどの新しさがみられました。また、学びのチャレンジとして、全国学力・学習状況調査やPISAなどを踏まえ、これからの社会で求められる力を育成するための問題の掲載がありました。

光村図書は、思考力・表現力を高めるための語彙ブックという資料があり、インプット・アウトプットに必要な語彙力を高めていくための工夫が特徴的でした。

◆教育委員（西尾剛）最近では生徒が自分のタブレットを使って学習しますが、国語でのタブレットの活用という観点では、どのような特徴が見られましたか。

◎指導課長（藤谷考志）どの教科書にも二次元コードがあり、さまざまなコンテンツが用意されていました。中でも、東京書籍は内容が豊富で充実しており、光村図書は生徒が必要に応じて選んで書き込めるコンテンツが充実していました。

また二次元コードだけでは、開いてみるまで内容が分からないので、説明と一緒に掲載されている方が使いやすいという意見が、報告されていました。

◆教育委員（澤田久子）生徒が情報を活用する上で、情報モラル教育はとても必要だと思います。その上でどの会社も著作権については掲載されていて、とても重要なことだなと思っています。特に三省堂の著作権についての取り扱いはとても丁寧でわかりやすいと私は感じました。

◆教育委員（池島明子）教科書では教材についての学習の取り組み方や流れが書かれていますが、そこにも各社違いがあるように感じました。生徒や教師が使いやすいものが大事だと思いますが、皆さんはどのようにお考えになりましたか。

◆教育委員（澤田久子）私も、同じ教材であっても、各社めあての設定や着目する視点に少しずつ違いがあるように感じました。特に、光村図書は学習の流れを横書きにしていることが特徴的で、1ページにまとめてレイアウトされていることでとても強調されていて、わかりやすさに少し驚きました。

◆教育委員（奥健一郎）日本語が持つ力そのものについて申し上げたいのですが、海外に出張したとき語学学校に勤めている方々と話をしますが、日本語を勉強している海外の方の変化が他の語学に比べてかなり違いが見られると。多分母音の影響だと思いますが、独特の響、それから繊細な表現について、やっぱりそういうものが日本語にあるみたいで、人間性そのものが日本語を勉強している人は、いい意味で変わってきているという傾向があると聞き、非常に私は驚きました。そういう意味でやはり日本語表現力を鍛え高めるといって教科書がすごく重要じゃないかと感じました。そういう意味では光村図書の、語彙ブックのような工夫はとても有効だと感じております。

◆教育委員（澤田久子）学習の流れでの着目する視点についても、光村図書は文学作品の読解など、情景や心情を深く読み取る課題設定がされているように感じました。そこが特徴的ではないかと思います。

- ◆教育委員（西尾剛）どの教科書も非常によくできていて、この分野に関しては、ここがいい、この分野はここがいいという点が各社あり、なかなか甲乙つけがたく、選び難い面がありますが、総合的に見ると、私も澤田委員がおっしゃるように、光村図書が比較的深く考えられていて上手に作られているという印象は受けました。
- ◆教育委員（池島明子）昨日新聞報道で、中学生の国語の正解率が60%を割っていて、問題なのがやはり長文の読解力が下がっているからではないかという記事を見ました。そういった面からも、澤田委員おっしゃったように作品の読解力を高めるような工夫がされているものが好ましいのではないかと感じました。
- ◆教育長（竹内悟）ご意見ありがとうございます。時間もございますので、ここで、国語の採択をいたします。今の議論と選定委員会の報告書をふまえると、各社工夫がされている中で、光村図書の教科書がいいように思うのですが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長（竹内悟）では中学校国語の教科用図書は光村図書の「国語」に決定いたします。

- ◆教育長（竹内悟）次に「書写」の審議に移ります。書写の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。
中学校の書写の指導において、特徴的なことはどのようなことがあるのでしょうか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）中学校での書写の特徴といたしましては、楷書だけでなく行書を学習することが挙げられます。それに関連して、文字を正しく整えて書くという観点に加え、書道の芸術性につながるような、文字の表現効果に触れるという観点の存在は、小学校との違いの1つと言えらると思います。

一方、実生活では、自分が書いた文字をさまざまな場面でより多くの人が見る機会が、学年に応じて増加していきます。そのような実生活で活かせる場面を意識することは、生徒がより関心を持って学習に取り組むために重要であると考えております。

- ◆教育長（竹内悟）ではその観点で各教科書を見た時の特徴を教えてください。

◎教育部長（鍋谷芳比古）どの出版社も、行書の学習については段階を経て学べるように工夫されておりました。また、書道の芸術性という点では書聖・王羲之（おうぎし）を取り上げるなど発展的な学習につながる工夫も見られました。

- ◆教育委員（奥健一郎）今、王羲之の話が出ましたが、王羲之は書道においてはまさに書聖で、会社で言えば創業者のような存在ですね。中学生が王羲之について学ぶことは、とても有意義なことだと思っております。

- ◆教育委員（西尾剛）では実生活での活用という点については、いかがですか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）全ての教科書において日常での活用について取り扱われており、入学願書、年賀状、のし袋、などが掲載されておりました。各社の特徴を申し上げますと、東京書籍は、「年賀状を書こう」「本のポップを書こう」「思いを文字で表そう」などが取り扱われておりました。

三省堂は、「グループ新聞を作ろう」「情報誌を作ろう」「名言集を作ろう」などが取り扱われておりました。

教育出版は、「ポスターを書く」「新聞を書く」「案内状を書く」などが取り扱われておりました。

光村図書は、「情報収集の達人になろう」「職業ガイドを作ろう」「冊子にま

とめよう」などが取り扱われていました。

◆教育委員（西尾剛）その他に特徴はありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）東京書籍は、巻末に書写活用ブックがあり、さまざまな書式が示され、表にまとめられた楷書・行書が掲載されていました。また、身の回りの題材を多く取り上げて掲載されていました。

三省堂は、「身の回りの文字」について「文字に関わる仕事」という観点での掲載が特徴的でした。

教育出版は、題材等に小説や詩、短歌・俳句を扱ったページ数が比較的多くありました。また、身の回りの題材について多く掲載されていました。

光村図書は、取り外せる別冊の「書写ブック」があることなど、硬筆で書き込める箇所が多く設けられておりました。

◆教育委員（池島明子）各社の二次元コードについての特徴があれば教えてください。

◎教育部長（鍋谷芳比古）二次元コードの掲載数とそのコンテンツの数には違いがありませんでした。二次元コードが多いのは、教育出版と光村図書でした。また二次元コードから左利きの生徒のための説明について、どの教科書もみることができますが、三省堂と光村図書は動画による説明もありました。

◆教育委員（澤田久子）今、左利きの子も増えておりますので、毛筆とか書くということについて、左利きの生徒への配慮はとても重要なことだと思っています。

三省堂の二次元コードには左手で書く人という説明があり、左手で書いている動画があるのがとても良いと思いました。

◆教育長（竹内悟）その他に気付いたことはありますか。

◆教育委員（澤田久子）特に三村の書写ブックは、外せるようになっていた点が他者と違っていいと思いました。また、手本の示し方が各社少し違っており、特に三村は見開きの2ページを使って、書写を半紙の原寸大の大きさで見ることができるといいと思いました。他にも三村は、ユニバーサルデザインの文字のことも書いてあり、見やすさについても配慮されているかなというふうに感じております。

◆教育長（竹内悟）今までの質疑、ご意見ならびに選定委員会の報告書を踏まえて、光村図書がいいように思いますが、みなさんはいかがですか。

【「異議なし」の声】

◆教育長（竹内悟）では、中学校書写の教科用図書は光村図書の「中学書写」に決定いたします。

◆教育長（竹内悟）それでは、次の「社会・地理的分野」に移ります。地理の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。

地理は4社ありますが、それぞれの特徴はどのようなものでしたか。

◎指導課長（藤谷考志）どの教科書も人権尊重の観点を踏まえ、紛争や難民について掲載され、学習するうえで重要な写真、図、表なども大きく工夫されていました。

東京書籍は、構成内容として「世界の諸地域」と「日本の諸地域」のページ割合が同じであり、他の3社では「日本の諸地域」の割合が多いということと比較して特徴的と言えます。

教育出版は、ヨーロッパ州の学習とアフリカ州の学習の間に、過去の植民地政策のページを配置するなど、スムーズな単元の移行ができるための組織・配列の工夫がありました。

帝国書院は、各章の初めになじみやすい絵地図が掲載されるなど、小学校から

の橋渡しになるような工夫がありました。

日本文教出版は、様々なコンテンツにつながる二次元コードの数が最も多く、「ポートフォリオ」、「イントロダクションムービー」、「確認小テスト」の3つの柱で系統的に設定されていました。

- ◆教育長（竹内悟）泉大津市では3中学校8小学校すべてが小中一貫教育を推進しております。小中一貫教育を踏まえて考えていくとどの教科書も、色鮮やかな写真が大きく使われて生徒の興味を引きつける工夫を感じて、小学校から中学校へのスムーズな接続にも有効だと思っております。先ほど選定副委員長から説明がありましたが、帝国書院の特徴が本市には有効な工夫だということを非常に強く感じております。
- ◆教育委員（澤田久子）地理の教科書なので、二次元コードも合わせて、とても多くの情報が掲載されておりますが、二次元コードは、その数と情報量は必ずしも一致していないという印象があります。コードが多いからといって、中身の問題と少し違うのかなというふうに感じました。また、国語や書写でも、二次元コードを読み取る前に内容が何か分かる方が使いやすいという話もありました。その点ではどうでしたか。
- ◎指導課長（藤谷考志）二次元コードの内容について読み取る前に分かるよう工夫されているのは、東京書籍と帝国書院でした。また、他社においても、言葉による説明はなくても、各章や導入ページごとに同じパターンで使えるように規則性を持たせている工夫も見取ることができました。
- ◆教育委員（奥健一郎）地理を学習するうえで重要な点が領土や領有権について大事な問題だと思っております。各社で少し、表現の仕方が若干違うように感じましたが、その点についてはいかがでしょうか。
- ◎指導課長（藤谷考志）調査報告書には、領土についての取り扱いの特徴はありませんでしたが、確かに各社の表記には違いが見られました。読み方や受け止め方には個人の主観の部分もありますが、どの教科書にも間違っただことは書かれていないと考えています。
- ◆教育委員（西尾剛）領土とか領有権は非常にセンシティブな問題ですが、学習指導要領できちんと指導するように記載されている以上、やはり日本の立場を淡々と冷静に記載することが大事ではないかと思えます。曖昧に書くと解釈によってかわるので、誰が読んでもこうゆうことだと分かる事実だけを書いている文章でなければいけないと思えます。特に尖閣諸島については、学習指導要領にそもそも領土問題は存在しないということを指導するように、きちんと明記されているので、そもそも領土問題はないということがきちんと書いている必要があると思えます。ほとんどの教科書は、きちんと客観的に書かれていますが、そのように読めないような教科書は、間違っているという訳ではないですが、少しどうかと思いました。
- ◆教育委員（池島明子）狭い話になりますが、大阪や近畿地方のことなど、生徒にとって身近なことがどのように扱われているかという視点で特徴があれば教えてください。
- ◎指導課長（藤谷考志）各社、人口、歴史、環境といった視点で近畿地方の学習が展開されていました。中でも教育出版には「泉州地方」についての記述がありました。また、帝国書院と日本文教出版は近畿地方に多くのページ数をさいていて、大阪の特色でもある在日外国人についての説明が記載されています。
- ◆教育委員（澤田久子）地理の教科書には、写真や地図、グラフなどが多く掲載されていると思えますが、見やすさについてはどうでしょうか。
- ◎指導課長（藤谷考志）調査報告の中では、帝国書院は写真も教科書用に独自に撮

影されたものを掲載し、巻末の資料も充実しているという内容がありました。

- ◆教育委員（西尾剛）図について、各社ともユニバーサルデザインということで、色覚特性のある者にも見やすいように作られているとうたわれています。私は、色覚特性があるのですが、少なくとも私の目から見ると、どの教科書もそこまで見やすくは作られていないと感じます。色覚特性のある者は、統計的に各クラスに1人以上はいるはずで、ほとんどは赤と緑の区別がつきません。例えば駅のプラットホームの時刻表も、特急が赤、急行は緑で表記されているとその赤と緑が非常に見にくくて、どれが特急でどれが急行かが非常にわかりにくい。その場合は近づいて、凝視するとなんとなくわかるかなという感じで、実生活でも非常に不便を被ることが多いです。ただ、少数派、マイノリティの意見なのでなかなか色覚に特性のない人にはわかってもらえず、なかなか配慮していただけないという実態があります。

この地図を見ても、この教科書については配慮が少ない、多いということではなく、図面ごとに違います。おそらく筆者や担当者が違うから統一されていないように思います。少なくとも1つの図に、赤と緑を使われると非常にわかりにくい。例えば緑のところに、点々や斜線をつけないとはっきりとはわからない。その観点から見ると、どれも配慮は低いですが、帝国書院と日本文教出版に関しては、比較的配慮がされていると思う図が多い印象は受けました。

- ◆教育長（竹内悟）私も赤緑色弱ですので、今、西尾委員が言われたことがよくわかります。他、何かご意見ございますか。
- ◆教育委員（奥健一郎）今の論点は非常に重要だと思っています。地理の教科書は見やすくわかりやすさが大事で、色覚特性の問題、そういった生徒が必ずどのクラスもいるという事実を踏まえて、現時点で何がパーフェクトとは言わないまでも、よりベターかという観点が非常に重要だと思っていますので、先ほどの帝国書院についての意見は非常に貴重だと思いました。

- ◆教育長（竹内悟）では社会科・地理的分野の採択を行います。今の質疑やご意見、ならびに選定委員会の報告書をふまえると、帝国書院の工夫が多くこの点で評価されたと思いますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長（竹内悟）では、中学校社会の教科用図書は帝国書院の「中学生の地理」に決定いたします。

- ◆教育長（竹内悟）それでは、次の「社会・歴史的分野」に移ります。歴史の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。歴史の教科書は出版社が多いですが、どのような報告がありましたか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）まず、学び舎についてですが、提供された教科書の見本が展示用の1冊のみであった中、可能な範囲で調査を行っていただきました。しかしながら、選定委員や教育委員が十分に検討することは難しく、今回は選定基準を満たしていないと判断させていただきました。

調査報告会におきましては、「各単元の構成」という観点を中心に報告されておりました。

東京書籍は、「導入の活動」、「学習課題」、「本文」、「学習課題」を解決しながら進める「チェック&トライ」、終わりに「まとめの活動」という流れで構成されています。

教育出版は、「学習のはじめに」「学習課題」「本文」「学習課題」を解決しながら進める「確認／表現」終わりに「学習のまとめと表現」という流れで構成されています。

帝国書院は、学習を見通す問い、「学習課題」、「本文」、学習課題を解決しながら進める「確認しよう／説明しよう」、終わりに「学習を振り返ろう」という流れで構成されています。

山川出版社は、年表、「学習課題」、「本文」、課題を迫及する「ステップアップ」、終わりに「まとめ」による振り返りという流れで構成されています。

日本文教出版は、「学習のはじめに」、「学習課題」、「本文」、学習を確かめるための「確認／表現」、終わりに「まとめと振り返り」という流れで構成されています。

自由社は、「登場人物紹介コーナー」が設けられた「予告編」、「学習課題」、「本文」、「チャレンジ」、終わりに「調べ学習のページ」「復習問題のページ」「時代の特徴を考えるページ」「対話とまとめ図のページ」という流れで構成されています。

育鵬社は、歴史絵巻の「鳥の目で見ると」や資料を読解する「虫の目で見ると」、「学習課題」、「本文」、「確認／探究」、終わりに「学習のまとめ」という流れで構成されていました。

令和書籍は、「略年表」、「学習課題」、「本文」、終わりに「まとめ学習」、「〇〇のまとめ」の流れで構成されています。また、本文が先に縦書きで記載され、後に資料が配置されている点は特徴的でした。

- ◆教育委員（澤田久子）「情報量」という観点ではどのような特徴がありましたか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）まず、教科書のページ数では令和書籍が520ページと一番多く、次に帝国書院、日本文教出版が多かったです。ページ数が少ないのは山川出版社でした。次に、索引で調べることができる人物の数が多いのは育鵬社、山川出版社、自由社で、少ないのは日本文教出版でした。索引で調べることができる歴史的事項の数が多いのは、東京書籍、自由社、教育出版でした。こちらも少ないのは日本文教出版でした。最後に、二次元コードの数が多かったのは、日本文教出版と東京書籍でした。
- ◆教育長（竹内悟）教科書の内容は非常に大切だと思いますが、それ以外の観点で少し話をさせてもらいます。まず、基本どの教科書もA4サイズになってきていますが、子どもたちの机は昔の教科書のサイズのままです。例えば、地図帳と教科書を置くと、机がいっぱいになってしまうというような状況です。その上で、本市はタブレットを授業で常に使うようになってきており、使用頻度が全国学力状況調査の結果、全国比較をしても全国より高い、80、90%近い数字を出していますので、非常に机の上が狭くなっているということを考えると、それに準じた適切な大きさや厚さがあるように感じています。
- ◆教育委員（西尾剛）先日の教科書の展示にもたくさんの市民が閲覧にこられ、閲覧後のアンケート調査の結果でも、教科書のボリュームについての意見が多かったです。
- ◆教育委員（奥健一郎）教科書によって索引の有無の違いが見られます。学習する際の人物や出来事について調べるためには、やはり必要だと思っています。
- ◆教育委員（西尾剛）おっしゃるように、索引は頻繁に使うわけではないですが、ついていなければやはり使い勝手の悪さは感じると思います。あと、ボリュームということに関しては、山川出版が一番薄く、負担が少ないようにも思いますが、活字のポイントが小さく、行間も狭いので、文章による情報量が多い気がします。
- ◆教育委員（池島明子）歴史の教科書は、神話の取り扱いや戦争についての記述などが注目されることが多いと感じますが、そのあたりについてはいかがでしょうか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）様々な思想や立場によって評価の分かれるところですが、

前提としてすべての教科書が検定を合格しておりますので、間違いが書かれているものとは考えておりません。しかし、例えば、神話については、「当時の人々の考え方を知る1つの参考」として取り扱うことが主な目的ですが、掲載方法によっては誤解を生む可能性が高まることがあると考えております。

◆教育委員（西尾剛）神話を事実と混同するような記載をしている教科書はもちろんありませんが、中には本文に混ぜて記載している教科書もありますので、そうすると、生徒が今まで書かれていた史実と混同する可能性もあると思いますので、やはりコラムとして記載するのがいいと思いました。

◆教育長（竹内悟）私もその点については非常に気になっていまして、私が中・高時代の社会の授業を振り返ってみると、やはり教師の考え方を通じて歴史の授業が展開されていたと感じています。今の生徒たちには、教師の個人的な考え方で歴史を学ぶことのないようにしたいと強い思いを持っています

ここまでの、情報量と、扱いやすさといった話をふまえると、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版が良いと思いました。

◆教育委員（澤田久子）歴史というと知識の話になりがちなのですが、今は思考力や主体性も大切にすべきと言われていています。そのあたりで特徴はありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）教育出版では章のタイトルを、例えば「グレートジャーニー」とするなど、生徒の興味を引く工夫がありました。また、東京書籍、帝国書院、日本文教出版は、全ページの端に年表が記載され、今学習している時代や前後の関係がわかりやすくなっていました。

◆教育委員（池島明子）主体的に考えるという点で、帝国書院の教科書には、導入で単元を見通す問いや教科書に直接書き込む箇所が多く設けられていて、単に「記憶する」ではなく、「考える」という活動が多く取り入れられていると感じました。

◆教育委員（西尾剛）帝国書院は発展学習を扱う特設ページも豊富にあるので、生徒が自ら学びに向かう場面を設定するなど、様々な授業展開が期待できるのではないかと思います。

◆教育長（竹内悟）ありがとうございます。他に意見はありませんか。

◆教育委員（奥健一郎）今までの意見の中での特徴は、単に知識として歴史を学ぶだけではなく、歴史的視点で物を考えるという試みをやって歴史的な物の見方を自分で考えるきっかけ作りをしているという点は特色的な良い試みだと思います。その点、帝国書院は非常に工夫していると思いました。

◆教育長（竹内悟）それでは、社会科・歴史的分野の採択を行います。今までの意見を聞いておりましたら、様々な要素を総合的に備えている教科書として、帝国書院がいいように思いますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

◆教育長（竹内悟）では、中学校歴史の教科用図書は帝国書院の「中学生の歴史」に決定いたします。

◆教育長（竹内悟）それでは、次の「社会・公民的分野」に移ります。公民の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思っております。

公民の教科書は6社ですが、それぞれの特徴はどのように報告されておりましたか。

◎指導課長（藤谷考志）どの教科書も、地理的分野・歴史的分野との関連性を示し、主体的に学習できるように工夫されておりました。

東京書籍は、「チェック&トライ」で各単元の学習内容をまとめ、章のまとめでは基礎・基本を押さえながら、課題解決的な学習ができるよう工夫されておりました。

教育出版は、学習を始める前にノートの書き方を紹介してまとめ方の例を示し、まとめのページでは思考を整理するためのツールが紹介されており、思考力・表現力の育成が図られる工夫がありました。

帝国書院は、写真やイラスト、資料等充実した内容が掲載されており、特に左上の写真が大きくわかりやすく学習内容を印象付け、既習事項との関連や語句の解説なども丁寧に紹介されていました。

日本文教出版は、イラストや漫画を多く採用しており、抽象的概念や学び方の流れをわかりやすく伝え、見通しをもって学習を進められるよう、記載に工夫がみられました。

自由社は、巻末の「課題の探求」において、ディベートについて詳細に掲載し、自らの意見を主張し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力をつける学習ができるよう、工夫されていました。

育鵬社は、導入資料に、生徒に課題意識をもたせるものが採用されていて、社会的な見方・考え方を働かせる言葉が添えられていることで、学習を支援できるように工夫されていました。

- ◆教育委員（奥健一郎）公民は様々な情報を取り扱う教科だと思いますが、二次元コードの情報には何か特徴がありましたか。
- ◎指導課長（藤谷考志）二次元コードの数が多いのは東京書籍と日本文教出版です。東京書籍は巻末の法令等の資料を日本国憲法だけにして、他は二次元コードから見ないようにしていました。反対に自由社と育鵬社は二次元コードが少なく、自由社は0点、育鵬社は6点となっております。
- ◆教育委員（奥健一郎）泉大津市では1人1台端末の活用が定着していると聞いています。単純に数だけでは判断できませんが、なるべく有効に使える教科書がいいと感じています。
- ◆教育委員（澤田久子）公民の学習は、全体像を俯瞰的にとらえることも重要ではないかと思いますが、單元ごとのまとめや振り返りには何か特徴が見られましたか。
- ◎指導課長（藤谷考志）調査報告では、まとめのページについて、レイアウトや情報量が適切で使いやすいものとして、東京書籍、教育出版、日本文教出版が挙げられていました。
- ◆教育委員（池島明子）公民の学習には、現代社会や政治、経済、国際社会などの大項目がありますが、重視する点などは考えられますか。
- ◎指導課長（藤谷考志）2022年4月1日から成人年齢が引き下げられ18歳に変わったことから、選挙権に関すること、契約に関することなどが注目され、高等学校はもちろん、中学校でも、経済や金融について適切に学習しておく必要性が高まっていると考えられます。
- ◆教育委員（池島明子）その観点で見たときには、どのような特徴が見られましたか。
- ◎指導課長（藤谷考志）特徴的なのは帝国書院と日本文教出版でした。帝国書院は経済を扱うページの割合が大きく、金融を扱うページ数も多かったです。日本文教出版は選挙権年齢の引き下げに関する事例が、大変多く掲載されていました。
- ◆教育委員（西尾剛）公民の政治分野に関しては、憲法や法律に則った制度を解説するので、各社ともそれほど大きな違いはありませんが、経済とか金融に関しては、筆者によって取り上げる対象や考え方が違いますが、どの問題をどこまで取り上げるかということが気になっています。若者が悪質な詐欺や商法に引っかかりお金をだまし取られたりすることも多々あるので、そのような危険に近づくことがないような、内容であるということも重要だと思います。その観点で、暗号

資産を教科書で取り上げる、必要があるのかと疑問に思っています。通貨の中で暗号資産が取り上げられていますが、若者が暗号資産を決済の手段として使うことはほとんどないと思います。逆に暗号資産に関する詐欺でだまし取られるケースも多いので、あまり教科書に書かないほうがいいんじゃないかと思います。

また、教科書によっては、金融機関の種類の説明で「都市銀行」「地方銀行」「信託銀行」と並んで「消費者金融機関」という単語を使っている会社もありますが、そういった単語は私が知る限りありません。そういった使い方も自由ですが、いかがかと思いました。その点、教育出版と日本文教出版は標準的な説明だと思いました。

- ◆教育長（竹内悟）中学校の社会の教員は、歴史や地理に詳しいという印象はありますが、経済や金融については苦手とする教員もいるかもしれません。十分な指導力のある教員が、生徒に正しい知識を伝えることはとても重要ですが、不用意にたくさんの情報を与えることは、生徒のリスクを高めることにつながります。9割以上の生徒がスマホをもっており、色々な決済方法もありますので、教師がそういった情報をしっかり理解した上で教科書を使って教え、生徒が興味を持ち学習しようというきっかけになることが大切なことだと思います。

それでは、他に意見はありませんか。

- ◆教育委員（奥健一郎）先ほど金融や契約の話がありましたが、私も暗号資産や消費者金融機関の表記についてはきちんとした表記をする必要があると思っています。また、個人的に、日本文教出版が大阪の写真を掲載していることが身近に感じました。
- ◆教育長（竹内悟）それでは、社会科・公民的分野の採択を行います。今までの意見を聞いておりましたら、日本文教出版がいいように思いますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長（竹内悟）では、中学校公民の教科用図書は日本文教出版の「中学社会 公民的分野」に決定いたします。

- ◆教育長（竹内悟）それでは、次の「地図」に移ります。地図の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。地図は2社ですが、どのような特徴が報告されていきましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）東京書籍は、「Bee's eye（ビーズアイ）」で社会の課題にどう取り組むべきかを問う質問が設けられており、主体的に社会の形成に参画する態度が養えるようになっていました。また、巻頭に世界の国や首都を示した全図、巻末に日本の都道府県と県庁所在地を示した日本全図が掲載されており、小学校の既習事項を振り返ることができるようになっていました。

帝国書院は、課題解決的な学習を行うために、「地図で発見！」において、社会的な見方・考え方を働かせた学習に活用できるように工夫されていました。また、社会科の学習に限らず、修学旅行や校外学習でも活用できる資料や都市図が多数掲載されていました。

- ◆教育委員（澤田久子）地図は視覚的に捉えることが多くなるものですが、生徒にとっての見やすさという観点では違いはありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）見やすさという観点では、どちらの地図においても、色使いや地名の表記、使用される文字のフォントや大きさなどにも十分な配慮がなされており、大きな違いは見受けられないものと考えられます。

- ◆教育委員（西尾剛）私は、東京書籍の地図では、海底の様子が示されていて、例えばアジアのどこが深くてどこが浅いか見ることができ、非常にきれいで地理の理解

に役に立つと思いました。

- ◆教育委員（奥健一郎）海の深さが分かるというのは、どのような学習と関連することなのでしょうか。
- ◆教育委員（西尾剛）海の上だけ見ているのではなく、海の下を見て初めて地形など色々なことが理解できる。例えば、古代にマンモスや鹿は、北から樺太などを通して日本にやってきた、ナウマンゾウや大型動物は南からやってきた、というふうに北と南2つのルートがありますが、数万年前に日本中国が陸続きなんて間違いじゃないかと思っていましたが、この地図を見るとよく分かりました。東シナ海はすごく浅くて、180メートルぐらいしかない。それが中国大陸まで続いている。ところが日本列島をすぎると、途端に深くなって何千メートルになる。このように海底を見ると日本列島はユーラシア大陸の一部だったとわかります。
- ◆教育委員（池島明子）私は情報量という観点も重要ではないかと思うのですが、二次元コードについての違いはありましたか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）二次元コードの数では、東京書籍が82、帝国書院が54となっております。
- ◆教育委員（池島明子）その他全体的な情報量についての特徴はありましたか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）全体のページ数で、帝国書院の方が20ページ以上多いという点があります。ですから、さまざまな観点で比較したときにも帝国書院の方が取り扱うページ数が多いということがほとんどでした。また、資料としての情報量だけでなく、防災・歴史・環境などについての考察を扱う内容においても、帝国書院の方が多くのページを使って扱われていました。
- ◆教育委員（西尾剛）東京書籍は二次元コードが多かったのも、そこからつながる情報という位置づけにしているのかもしれないですね。しかし、地図はその使い方を考えると、調べるための資料としての役割という要素が強いと思うのですが、そうすると「地図自体の持つ情報量」が重要となるのではないのでしょうか。
- ◆教育長（竹内悟）その他、ご意見があれば言ってください。
- ◆教育委員（奥健一郎）結局地図帳の意義や役割の問題だと思います。二次元コードが多いこともいいと思いますが、地図帳の役割は情報量がたくさんあってその場で資料としての役割を果たすことが地図帳の目的にかなっていると思います。その点では帝国書院がいいと思います。
- ◆教育長（竹内悟）泉大津市が目指している授業づくりにおいて、問題解決学習をメインにしている教科書である点に、重きを置きたいと思っております。それでは、地図の採択をいたします。今の質疑と選定委員会の報告書をふまえると、地図は帝国書院がいいのではないかと思うのですが、異議はございませんか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長（竹内悟）では、中学校地図の教科用図書は帝国書院の「中学校 社会科地図」に決定いたします。
- ◆教育長（竹内悟）それでは、次の「数学」に移ります。数学の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。調査報告ではどのような特徴が挙げられていましたか。
- ◎指導課長（藤谷考志）東京書籍は、練習問題において必ず解けるようになりたい基本問題には「♡マーク」、やや難しい問題には「★マーク」がつけられていて生徒の段階に応じた取組み方ができる工夫がありました。
- 大日本図書は、巻末には、既習事項の確認ができるよう、小学校や前学年で学習した内容のふりかえりが設けられていました。また、3年の教科書には、高校

で学ぶ数学の内容を掲載していました。

学校図書は、本文中の「T e a B r e a k」や章末の「深めよう」、巻末の「疑問を考えよう・数学の歴史の話」で、数学への興味・関心を高めるための読み物教材や数学史に関する題材が用意されていました。

教育出版は、既習内容のふりかえりを行う際に、よりどころとなるページに戻るリンクである「もどって確認」「学びのマップ」があり、家庭学習や自主学習でも、授業の復習を行うことができるようになっていました。

啓林館は、すべての「例」「例題」「章末問題」に「スマートレクチャー」という解説動画が用意されていました。

数研出版は、基本的な計算が習得できるよう、問、練習問題、確認問題、章の問題、チャレンジ編に分け、十分な量の問題がありました。

日本文教出版は、切り離して使える対話シートが巻末に用意されており、班活動などに使用できるものになっていました。

◆教育委員（奥健一郎）中学校の数学の教科書を採択するにあたって、大切な視点はどのようなことですか。

◎指導課長（藤谷考志）中学校の数学は、小学校の算数と比べて、抽象的・概念的な学習となっていくしますので、生活とのつながりを実感しにくいものになりがちです。生徒たちは学習する意義を感じにくくなることもありますので、主体的な学習を実現するためには、様々な工夫が必要と考えられます。また、数学に限らず、学習内容の増加と複雑化にともない、授業時間だけでは、内容を理解し技能を定着させるということは難しくなってきます。同時に家庭学習などでの自学自習の重要性はますます高まってくる教科の1つと言えます。

◆教育委員（奥健一郎）「生活や社会」と数学の関連という視点で、各社の特徴はありましたか。

◎指導課長（藤谷考志）巻末や単元の終わり、また、二次元コードのコンテンツなど、示し方に違いはありましたが、どの教科書においても掲載されており、十分に意識された内容になっていました。また、それに関連して他教科とのつながりを意識できる内容は大日本図書が多く取り扱われていました。

◆教育委員（西尾剛）他の観点においては特徴や傾向は見られましたか。

◎指導課長（藤谷考志）学習指導要領で重視される、対話的な学びにつながる内容を多く掲載していたのは、数研出版と学校図書でした。また、例題や練習問題が充実しているのは日本文教出版、学校図書、数研出版、東京書籍、啓林館でした。関連して、補充問題などのデジタルコンテンツを利用するための二次元コードの数は、東京書籍がとて多く、啓林館、日本文教出版も豊富に用意されていました。

◆教育委員（西尾剛）対話的に学習して考察するような思考力を高めることも大事ですが、数学はすでにある法則を身に付けて練習問題を解いて理解することも大事だと思います。これらのバランスについてはどのように考えたらいいのでしょうか。

◎指導課長（藤谷考志）「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力」は、相互に関連していますので、どちらを優先させるというものではないのですが、対話的な学びが求められ始めたことで、授業で知識や技能の定着にかける時間は以前に比べて少なくなっている傾向があると考えられます。

◆教育長（竹内悟）はじめに説明があった、家庭学習や自学自習に関わる内容ですが、私が教育長になってすぐにギガ構想が生まれて、アプリ等入れて、家庭学習できる状況を整えました。やはり絶対的な練習量が昔に比べて減っていると感じています。目的や意味もわからずに、教師に言われるがまま問題をこなすことが

効果的かということ、学習指導要領で謳われている主体的対話的な学習とも関連付けて、考えなければいけないと思っています。一方で「個別最適な学び」も重視されています。どこの教科書も学力の下位層には非常に丁寧ですが、中間から上位層に関してどんどん前に進んでいくことが、どこの会社も弱いと思います。理由や仕組みを理解する前に、とにかく問題をこなしている方が、その理由や仕組みが分かってくるという生徒もいると思うのですが、どの教科書もいろいろな表現をされているので比較しにくいところでした。

- ◆教育委員（澤田久子）やはり数学は、理解力に差があるので、個別最適な学び方は取り入れていかないといけないと思います。その視点で考えると、問題数と二次元コードのコンテンツが充実している、東京書籍、啓林館、日本文教出版が候補になってくると思います。泉大津市では、小学校よりも中学校の方が学力調査等で課題が見受けられますが、中学1年生で大きなギャップを感じないような丁寧さが必要なのではないのでしょうか。
- ◆教育委員（池島明子）私も、中学校のスムーズなスタートと、3年間挫折をしないように、諦めないで取り組めるということが大切だと感じました。
- ◆教育委員（奥健一郎）その観点では、啓林館の解説動画は新たな手法として興味深いですね。
- ◆教育長（竹内悟）丁寧さという意味では、東京書籍は、「問い」、「例題」、「解説」などのレイアウトが非常に分かりやすく、生徒が後から自分で復習したいときにも学びやすいと感じました。
- ◆教育委員（西尾剛）私もトータルで見て、東京書籍がバランスがと思いました。
- ◆教育委員（奥健一郎）私も東京書籍の練習問題の難易度がわかりやすく示されていることは非常にいいことだと感じました。
- ◆教育長（竹内悟）それでは、数学の採択をいたします。今の質疑と選定委員会の報告書をふまえると、東京書籍がいいのではないかと思います。異議はございませんか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長（竹内悟）では、中学校数学の教科用図書は東京書籍の「新編 新しい数学」に決定いたします。
- ◆教育長（竹内悟）それでは、次の「理科」に移ります。理科の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。理科は5社ありますが、それぞれの教科書の特徴や違いはどうか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）東京書籍は、巻頭に「科学の本だな」があり、学習内容に関連のある書籍の紹介がありました。各章の初めに学習内容と関係する写真が見開きで示されており、興味関心を引き出す内容になっています。
大日本図書は、巻末に「ノートやレポートの書き方」が示されており、また、物質のすがたの単元の前には「化学実験に使う主な器具の使い方」が記載され、確認してから学習に入ることができるようになっていました。
学校図書は、実験観察の取り扱い数が一番多く、全ての章の初めに「Can-Do-List できるようになりたい目標」を各学年の内容に沿って詳しく示していました。
教育出版は、補足的な観察・実験の取り扱い数が多く、薬品の使い方の説明が充実していました。
啓林館は、環境保全や災害安全を取り扱っている箇所数が多く、計算を扱う学習内容については、「例題」と「考え方」が示され、立式や解説も示されていました。

- ◆教育委員（澤田久子）理科の教科書では、どのような観点を重視することが必要なのでしょうか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）理科の教科書では、写真や図などの見やすさ・わかりやすさという観点、知識の定着という観点、探求的な学習の実現という観点が重要になってくるのではないかと考えられます。
- ◆教育委員（池島明子）写真に関してはどれも鮮やかですが、東京書籍と学校図書、啓林館は特に明るくきれいだと感じました。
- ◆教育委員（西尾剛）特に東京書籍と啓林館は明るく発色も良いのに、紙質なのか、光の反射も少なく、落ち着いて見ることができる。また、書き込みもしやすそうでした。
- ◆教育委員（池島明子）写真に関して、見比べるために脊椎動物の説明の写真を各社で見ましたが、特に分かりやすく生徒の目を引くと思ったのは、東京書籍と啓林館でした。要するに見やすさ、わかりやすさという今話がたくさん出たんですけど。
- ◆教育委員（奥健一郎）知識の定着という観点では、情報量も大切だと思いますが、二次元コードの数はどうでしたか。
- ◆教育部長（鍋谷芳比古）二次元コードの数が多いのは東京書籍、学校図書、啓林館でした。開く前に内容の説明が書いてあるのは東京書籍と啓林館です。
- ◆教育委員（池島明子）東京書籍と大日本図書、教育出版は、巻末のまとめに生徒が自分でテスト問題を解くような形になっていて、知識の定着に繋がると感じました。
- ◆教育委員（澤田久子）理科では「探求的な学び」という観点もとても重要だと思うのですが、特徴的な教科書はありますか。
- ◎教育部長（鍋谷芳比古）探求する学習活動の取り扱いは、問題発見、観察・実験の考察、話し合いや説明など、全てにおいて啓林館が一番多く、次に東京書籍が多かったです。また、日常生活や社会との関連についても、啓林館が一番多くの具体例を掲載するなど、特徴がみられました。
- ◆教育委員（池島明子）啓林館は、岸和田のだんじりを掲載するなど、日常と理科を関連付けて捉える姿勢が強くみられました。
- ◆教育長（竹内悟）ありがとうございます。今までの意見等を聞いておりましたら、啓林館の教科書がいいように思いますが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長（竹内悟）では、中学校理科の教科用図書は啓林館の「未来へひろがるサイエンス」に決定いたします。
- ◆教育長（竹内悟）それでは、次の「音楽（一般・器楽）」に移ります。音楽（一般・器楽）の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思えます。どちらも教科書会社は2社しかありませんが、教科書にはどのような特徴がありましたか。
- ◎指導課長（藤谷考志）まず、音楽一般についてですが、教育出版は、音楽史や著作権に関して詳しく記載があり、巻末の資料などは大きく広げるページにまとめられていました。
教育芸術社は、二次元コードの数や内容が充実していきまして、開く前に内容がわかる説明もついています。特に創作ツールでは、タブレット上で作曲すると実際にその曲を流して聞くこともできる機能がありました。
- ◆教育委員（池島明子）中学校の音楽では、他にどのような観点が重要になるのでしょうか。

◎指導課長（藤谷考志）生徒の発達段階から、変声期の歌唱についての観点は中学校ならではのものと考えられます。また、著作権についても正しく学習する必要性が高いと考えられます。

◆教育委員（澤田久子）どちらにもきちんと変声期の記載はありますが、教育芸術社の方が、変声期に心がけることのアドバイスが書かれていて、そういう視点での記述が多かったように感じました。

◆教育委員（池島明子）著作権について、教育出版は、とても詳しく説明されていますが、教育芸術社はイラストが用いられていて、分かりやすさを優先しているように感じました。

◆教育長（竹内悟）泉大津市の中学生が端末を使う頻度が高いということを考えると、音楽を創作する活動の中で生徒が主体的に学習しアウトプットしていく場面はとても重要だと感じています。端末を使って手軽に創作に取り組めるという点では、教育芸術社の創作ツールが便利だと感じております。

◆教育委員（澤田久子）教育芸術社の教科書に生活の中の音楽という項目があり、音楽というと誰かが作曲した曲だけではなく、生活の中にも色々な音楽があることに着目させているのは、身近に音楽がたくさん溢れているということを感じられ、とてもいいと思いました。また教材でどちらの教科書でも扱われている「荒城の月」の原曲と編曲と比較するページを比べてみますと、教育芸術社の方が、同じページに原曲と編曲が並んでおり、どこが違うか分かりやすいレイアウトになっていると感じました。

◆教育委員（西尾剛）器楽の教科書の特徴はどのようなものでしたか。

◎指導課長（藤谷考志）教育出版は、「学びリンク」による二次元コードが24か所に掲載されていてコンテンツについては、「見る」「聴く」「知る」に分類され、活用ができるよう工夫されていました。

教育芸術社は、二次元コードによるコンテンツが43か所と、豊富に掲載されていて、コンテンツは、「動画」「音源」「創作ツール」「文章、ワークシート」に分類され、活用ができるよう工夫されていました。

◆教育委員（奥健一郎）表紙や中の写真などから受ける印象は、教育出版からは少し落ち着いた雰囲気を感じますね。対して教育芸術社からは明るく楽しい雰囲気を感じました。

◆教育委員（池島明子）写真の話ですが、実際の写真であればわかりやすいかというところではなくて、例えばギターのコードの指使いは教育芸術社のようにイラストの方がわかりやすいと思いました。

◆教育長（竹内悟）他にご意見はございませんか。

◆教育委員（澤田久子）教育芸術社の方が、打楽器の扱いがたくさんあり、いいと思いました。また泉大津はだんじり祭りが盛んですが、篠笛横笛の吹き方も教育芸術社の方がよりわかりやすく、興味がある生徒も多いと思いました。

◆教育委員（奥健一郎）今、打楽器の話が出ましたが、カスタネットに関しても教育芸術社はわかりやすく書かれていると思いました。

◆教育長（竹内悟）それでは音楽（一般・器楽）の採択をいたします。今までの意見等を聞いておりましたら、いずれも教育芸術社の方がいいように思いますが、みなさんはいかがですか。

【「異議なし」の声】

◆教育長（竹内悟）では、中学校音楽一般・器楽の教科用図書は教育芸術社の「中学生の音楽・中学生の器楽」に決定いたします。

◆教育長（竹内悟）それでは、次の「美術」に移ります。美術の報告書をご覧ください

さい。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。こちらは3社の教科書がありますが、どのような報告がありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）開隆堂は、1年、2・3年の2冊で構成されています。1年の教科書で著作権のことが掲載されており、著作者の気持ちや芸術文化の保護の観点からという視点で説明されていました。

光村図書は、1年、2・3年、美術資料1の3冊で構成されています。材料や用具については一番多く掲載されていて、多様な活動の実践につなげることができるものになっていました。

日本文教出版は、1年、2・3年上、2・3年下の3冊で構成されています。また、鑑賞のポイントというページがあり、とても分かりやすくまとめられています。

◆教育委員（池島明子）構成に各社違いがありますが、使いやすさという面では何かお話はありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）調査報告では、開隆堂と光村図書の2・3年が1冊という構成がよいという意見がありました。光村図書の別冊の資料については、特に意見はありませんでした。

◆教育委員（澤田久子）二次元コードの活用について、特徴はありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）二次元コードの数は日本文教出版が178か所、光村図書が90か所、開隆堂が33か所と差が見られました。

◆教育委員（池島明子）美術は主体的に自分でアイデアを出したり、人と話をする中で発想膨らませたり、そこから深い学びを実現する必要があると思いますが、生徒同士が対話や協働を行いやすくするような工夫はありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）生徒同士の意見交換等、言語活動の充実を図る箇所は開隆堂に多く、教科横断的な内容の記載は日本文教出版に多くありました。

◆教育長（竹内悟）日本の伝統的な美術文化、日本のアニメ文化、それから美術に関する多様な題材等が扱われて、改めて美術という教科の面白さとか奥深さを感じておりますが、実際に今の中学校の美術の授業時数において全て消化できるかという疑問です。美術の先生が上手にこの教科書を活用しながら、色々なことを教えていき、生徒には、上手い下手だけではなく、発想や構想、鑑賞といった様々な造形的な見方・考え方をのびのびと高めてもらいたいと思います。もう少し、余裕を持った授業になればいいですが、現場はなかなか難しいです。子ども達がこの教科書を見て、家庭で何かを生んでいけるような教科書だと、非常に魅力がある教科書だと思っています。

◆教育委員（澤田久子）開隆堂の油絵のごつごつした感じを表紙で触って分かる点がすごいと思いますし、興味を引くと思いました。

◆教育委員（奥健一郎）表紙を含めて、わくわくする気持ちをかき立てるような構成、作りが重要だと思うし、その点開隆堂が工夫されていると感じました。

◆教育長（竹内悟）開隆堂の2、3年生の教科書も、表紙を開けてすぐに、荒木先生のジョジョのアニメが出てくる点は中学生のわくわくする気持ちに繋がっていくと思っています。

◆教育長（竹内悟）それでは美術の採択をいたします。今までの意見等を聞いておりましたら、開隆堂がいいように思いますが、みなさんはいかがですか。

【「異議なし」の声】

◆教育長（竹内悟）では、中学校美術の教科用図書は開隆堂の「美術」に決定いたします。

◆教育長（竹内悟）それでは、次の「保健体育」に移ります。保健体育の報告書を

ご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思ひます。それぞれの教科書の特徴から聞かせてください。

◎指導課長（藤谷考志）調査報告の中では、ジェンダーや性的マイノリティに関する記載のちがひについて触れられていました。

東京書籍は、ジェンダーについて1ページ掲載されており、体のつくりの単元では、内臓について横から示すなどわかりやすくなっています。

大日本図書は、ジェンダーについての記載は教科書にはなく、二次元コードからのみ見ることができます。また、心肺蘇生法について大きくわかりやすく掲載されていました。

大修館書店は、ジェンダーについては2ページで扱われており、筋肉のつくりの示し方がとてもわかりやすかったです。

学研は、ジェンダーについて半ページほどの取り扱いがあり、健康の成り立ちについて、具体的でわかりやすい説明になっていました。

◆教育委員（池島明子）保健の部分で、生殖機能成熟のところから性の情報に繋がっており、その観点で言うと大修館書店が理解しやすく自然な流れだと感じました。

◆教育長（竹内悟）現在泉大津市内で性的マイノリティの児童生徒がいます。そういう状況の中で、自然な流れがなく、いきなりそういう単元になると、本人にとって苦しいと思うので、教科書の自然な流れの中で、性的マイノリティの話になると、当事者も周りも理解しやすいと流れになると思ひます。

◆教育委員（西尾剛）性についての学習のほかに、重視すべき内容はありますか。

◎指導課長（藤谷考志）中学生が、飲酒・喫煙・薬物について学習することは、身近な問題として、重要ではないかと考えておひます。

◆教育委員（西尾剛）その観点で特徴的な教科書はありましたか。

◎指導課長（藤谷考志）情報量が豊富であるという点で、大修館書店と学研が特徴的でした。

◆教育委員（池島明子）飲酒による健康被害でいうと、大修館書店が、他社と比較してわかりやすく説明されていると感じました。また「ほり下げる」という項目で生徒が教科書を見ている時に目に入ってくる情報を掲載しているところがいいと思ひました。学研では薬物について危険ドラッグなどの写真もあり、わかりやすく説明してひいて、しっかり授業の中で先生方にご指導いただけるようなきっかけづくりとなる説明があると感じました。

◆教育長（竹内悟）その他、ご意見はござひませんか。

◆教育委員（奥健一郎）性教育についてスムーズな流れで書かれている教科書が良ひと思ひておひまして、その点、大修館書店が非常に良くできていると感じました。

◆教育長（竹内悟）それでは、保健体育の採択をいたします。今の質疑と選定委員会の報告書をふまえて、大修館書店が良ひように思ひますが、良ひがでしようか。

【「異議なし」の声】

◆教育長（竹内悟）では、中学校保健体育の教科用図書は大修館書店の「最新 中学校保健体育」に決定いたします。

◆教育長（竹内悟）それでは、次の「技術・家庭（技術分野）」に移ります。技術の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思ひますが、まずはそれぞれの特徴の説明をお願いします。

◎教育部長（鍋谷芳比古）東京書籍は、4つの内容についてのページ数の割合は、どれも同じぐらいになっていました。また、現在の社会問題を解決するための発

展的な内容が記載されていました。

教育図書は、「情報」の内容についてページ数がやや多く使われていました。また、生活に生かすための工夫や技術が写真と共に記載されており、技術を生活に生かし継続して実践できるよう工夫されていました。

開隆堂は、「材料と加工」の内容についてページ数がやや多く使われていました。実際に材料加工の技術が使われている様子を写真等で示し、具体的なイメージを持たせやすい工夫がされています。

◆教育委員（澤田久子）技術は実習を行う教科という印象がありますが、実習という観点で何か特徴はありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）実習例が一番多く掲載されていたのは東京書籍でした。

教育図書は、実習中の確認などに便利な別冊の「スキルアシスト」があります。

開隆堂は材料と加工の内容を中心に全体的に安全指導・事故防止について扱う内容が充実していました。

◆教育委員（西尾剛）いずれの教科書もすべてのジャンルにおいて、まず社会生活の問題の発見、その問題の発見に対しての課題の設定、解決とあらゆる問題を4段階に分けてアプローチして記載している。私の主観としては、無理やりその流れにしているとしか読めないところもあり、私が子どものときに受けた技術家庭の教科書に比べて遥かに読みにくいという印象があります。おそらく指導要領で、そのような目標になっているからだと思いますが、無理矢理という印象です。

◆教育長（竹内悟）今の委員の意見に同じ思いを持っています。ただ、先ほど美術でも言いましたが、1年間の授業時数を考えたときに、この情報量をどうやって消化できるのかということがまず1点あります。時代の流れとともに、この技術の内容で情報の部分についてが、今の時代絶対に知っとかないといけないという部分がかかれてある教科書を進めたいとは考えています。学習指導要領の中でも、課題解決型の学習が重要視されているので、家庭学習で、先生がこの教科書を活用して、いろんなトライをなささいという投げかけも必要になってくると思っています。

◆教育委員（奥健一郎）情報の話が出ましたが、情報については教育図書が割合としてページ数を多く使っているという報告でしたが、充実していると考えて良いのでしょうか。

◆教育委員（西尾剛）確かにページ数という意味では、教育図書が一番多いと思いますが、内容としては、開隆堂が1つ頭抜き出ているという印象を受けました。なぜかという、アナログ情報をデジタル情報にするというのはどういうことなのか、デジタル情報はどういうメリット・デメリットがあるのかというような、基本の根本から詳しく書かれています。ネットやWebページの作り方、著作権についても具体的に考えさせるようになっていて、ワンレベル高いので、情報に関しては、開隆堂がいいと思いました。ただ、残念なのが233ページに誤植があるので、訂正されると思います。その点が気になりました。

教育長がおっしゃるように、情報は今、一番大事で、主観的には授業時間の半分以上はもう情報の教育に充てていけないとやっていけないような時代になると思っています。もちろん全員が、プログラマーになるわけではないので、プログラミングができるようになる必要はないですが、少なくとも、コンピューターやネット、プログラミングの基本的な仕組みは知っておく必要があると思います。

◆教育委員（池島明子）開隆堂は本当に詳しく情報について説明されていますが、中学生には難しすぎませんか。

◆教育長（竹内悟）技術の授業時数の中で、情報だけでも年間の授業時数全部使ってしまうくらいの量ですし、それがおかしいとも思いません。中学生が日常的に使うもので、これからは絶対に重要になってくるものですし、泉大津市としても、

子ども達にタブレット端末を使うよう推奨しているので、自分でどんどん活用していけばいいと思います。すべてを授業で理解させるのではなく、知りたいときに教科書で調べられるようなことがあってもいいと思っています。

- ◆教育委員（奥健一郎）技術分野、家庭分野両方ですが、ボリュームと授業時数の観点から見ると、この科目においては、常に傍において、調べたいときにきちんと調べることができる教科書であるという点が重要だと感じます。また、先ほど委員からご指摘があった233ページの誤植については修正されることを希望します。
- ◆教育長（竹内悟）それでは時間もありますので、技術の採択をいたします。今の質疑と選定委員会の報告書をふまえて、開隆堂がいいように思うのですが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長（竹内悟）では、中学校技術・家庭（技術分野）の教科用図書は開隆堂の「技術分野 テクノロジーに希望をのせて」に決定いたします。

- ◆教育長（竹内悟）それでは、次の「技術・家庭（家庭分野）」に移ります。家庭の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。まずはそれぞれの特徴の説明をお願いします。

◎指導課長（藤谷考志）家庭の3社の教科書について報告いたします。

東京書籍は、調理の実習例が見開きで掲載され、手順や配膳例などが写真付きでわかりやすくなっていました。

教育図書は、献立を考える際に、シールを活用したり、二次元コードコンテンツで各食品群の計算をしたりと、意欲的に取り組むための工夫がありました。

開隆堂は、災害時や防災について具体例や最新の情報が紹介され、自分ごととして考えやすいように工夫されていました。

- ◆教育委員（奥健一郎）家庭科にも実習がありますが、実習についての記載に特徴はありますか。

◎指導課長（藤谷考志）調理実習例・裁縫実習例ともに大きな差はありませんが、掲載数が多いのは東京書籍、開隆堂、教育図書の順でした。また、実習の時に有効な二次元コードから見るができる動画コンテンツはどの教科書にもありましたが、二次元コードの数は、東京書籍が142か所と一番多く、次に開隆堂の91か所、教育図書の73か所となっていました。

- ◆教育長（竹内悟）どの教科書にも防災や減災、また被災時を想定した内容が取り扱われています。泉大津市は特に小中学校、防災教育にも力を入れています。また、府道から下は、津波浸水区域で2小学校、1中学校がありますので、そういう意味では子ども達も、地域の人も強い意識を持って、防災教育をしております。それに関連づけ、学習を進めていけたら嬉しいと思っています。

- ◆教育委員（池島明子）私は、能登半島の震災、東日本大震災の復興支援に行かせていただいておりますが、やはり災害時のことを考えるとそれを意識した学習が生活の立て直しが必要なときにとっても有効だということを、実際、支援させていただいて感じています。特に食事面に関しては、学校にも備蓄用品があることもありますし、家庭でも今、色々備蓄用品を準備しておきましょうということがあると思いますが、開隆堂の教科書には災害時の調理などの説明があるので、その点、充実していると感じました。

- ◆教育長（竹内悟）先日の能登の被災地支援に、市の職員派遣で教育委員会から、1週間1名で3週間にわたって3名の職員を派遣させていただきました。帰ってきた職員の報告会では、家庭科で学習するような基本的な衣食住に関する知識っ

ていうのは非常に大切で、こういう場面で活かされるということを感じましたという報告はありました。

- ◆教育委員(澤田久子)本当に防災っていう観点は大事だなというふうに思います。別の観点で、家庭科には家族と家庭生活という内容がありますが、中学生が幼児と触れ合うような取り組みはありますか。
- ◆教育長(竹内悟)コロナ前までは職業体験をしていましたが、コロナ禍になってから途絶えています。乳幼児をお持ちの保護者の協力を得なければできないような取り組みは、私がお他市で校長をしている時にその学校はやっていましたが、泉大津市ではできていないです。中学生にとってすごく勉強になるし、すごく大きな心の変化にもなるので、是非ともまた復活して欲しいと思っています。
- ◆教育委員(西尾剛)中学生にとって、乳幼児と触れ合う機会は、非常に重要だと思います。核家族が多いので、年の離れた兄弟がいないと乳幼児と触れ合ったり、赤ちゃんを抱っこしたりする機会はめったにありません。教科書では、開隆堂が、家族や家庭生活の内容について多くのページを使って扱っているように感じましたので、いいと思いました。
- ◆教育長(竹内悟)それでは、家庭の採択をいたします。今の質疑と選定委員会の報告書をふまえて、開隆堂がいいように思うのですが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

- ◆教育長(竹内悟)では、中学校技術・家庭(家庭分野)の教科用図書は開隆堂の「家庭分野 自立し ともに支え合う生活へ」に決定いたします。

- ◆教育長(竹内悟)それでは、「英語」に移ります。英語の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思っています。各社の英語の教科書には、どのような特徴が見られましたか。

- ◎教育部長(鍋谷芳比古)東京書籍は、目的・場面・状況が意識され、4技能5領域がバランスよく配置されており、リアルな場面設定のもとで実践的なコミュニケーション力を伸ばす工夫がありました。

開隆堂は、各単元のとびらページにはGOALSとして単元目標を提示しており、自己評価ができるようになっていました。単元の最初には「できるようになること」として、絵付きで目標が明確に提示されています。

三省堂は、二次元コードコンテンツで、本文のアニメーション、文法の解説動画やAIによる発音チェック機能などがありました。

教育出版は、巻末資料が充実しており、「語形変化のまとめ」「不規則動詞変化表」「分野別用語集」「Word List」「つづりと発音」などがありました。

光村図書は、4人の中学生の3年間を貫くストーリーを通じて、生徒の身の回りのことから社会や世界のことへ学習をすすめながら、自分事としてとらえ、共感をもって取り組める内容になっていました。

啓林館は、各学年、学期末に技能統合型の言語活動が設定されており、目的・場面・状況を意識して思考力・判断力・表現力を育成できるように工夫されていました。

- ◆教育委員(西尾剛)二次元コードのコンテンツは英語では有効なものが多いと思いますが、各社に特徴はありますか。

- ◎教育部長(鍋谷芳比古)三省堂の発音チェックの機能は大きな特徴と言えますが、それ以外については、どこもそれぞれ工夫されていて、二次元コードの数についても大きな差は見られませんでした。

- ◆教育委員(池島明子)二次元コードで発音チェックの機能があり、日頃から使え

て素晴らしいと思いましたが、中学校の英語で発音はどれほど重視されているのでしょうか。

◆教育委員（奥健一郎）確かに英語の先生って専門性がありますので、発音を意識するのではと思っています。ただ英語は今や世界中で使われておりましてその土地のなまりがありますし、あまり発音にこだわりすぎるのはかえって話すことのハードルが高くなってしまわないかと思っています。

◆教育長（竹内悟）AIが今、導入され出してきて、発音をAIに判定してもらうものがありますけれども、それはそれで生徒はきっと自信がつくと思いますが、そこで自信がついたからといって英検やTOEFL、TOEICを受けに行くかという、かなりハードルが高いというのは事実です。泉大津市では今年度JETを導入して合計7名、本日来日しています。フルタイムで、各学校で勤務してもらいますが、英語の授業のALTだけでなく、他教科にどんどん入ってもらい、英語で体育や美術、音楽をするというイマージョン授業方式を取り入れたいと思っています。子ども達が発音をネイティブから直接、褒められどんどん自信をつけて、「通じる」と思うことが大事だと思うので、泉大津の子ども達に、英語を話すという自信をつけてもらいたくて、JETの導入を決断しました。

◆教育委員（奥健一郎）泉大津市の生徒に自信をつけてもらうという話が出ましたが、泉大津市の現状として、小学校は英語の成績が良いですが、中学校になって極端に落ちるといった傾向が数値として出ています。だから、「英語って面白いな」という感覚を持ったまま学習してもらうことが泉大津市では重要だと思っています。だから、まず一番大事なことは、小学校の学びをスムーズに、中学校に接続させて生徒を挫折させさせないことが非常に重要だという思いを持っています。

◆教育委員（澤田久子）小学校の英語と中学校の英語で、どのような違いがあるのでしょうか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）小学校との一番の違いは、単語や文法を身につけて、正確に「書くこと」や「読むこと」を求められるという点ではないでしょうか。

◆教育委員（澤田久子）各社の教科書には、小学校との接続や、「書くこと」「読むこと」について特徴はありましたか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）どの教科書も、小学校との接続を意識した内容を取り扱っていました。また、1年生の教科書で「書くこと」の取り扱いが多いのが啓林館、三省堂、東京書籍でした。また、「読むこと」の取り扱いが多いのは、東京書籍、開隆堂、教育出版でした。

◆教育委員（池島明子）小学校からのギャップを小さくしようと考えるなら、「書くこと」や「読むこと」よりも「聞くこと」や「話すこと」に中心を置く教科書が良いのではないのでしょうか。

◎教育部長（鍋谷芳比古）光村書店は、1年生の教科書において、「聞くこと」「話すこと」の取り扱いが大変多く、2年生・3年生とすすむにつれて、「書くこと」や「読むこと」が増えてくるという特徴がありました。

◆教育委員（竹内悟）最初に光村図書の特徴な部分で、4人の中学生の3年間のストーリーを通じてというお話がありましたが、1年生で英語に挫折をするストーリーですが、そのストーリー通り進んでいくという良いイメージを子ども達に植え付けるという意味で、光村図書が上手に構成していると思いました。

それでは時間ですので、英語の採択をいたします。今の質疑と選定委員会の報告書をふまえて、光村図書がいいように思うのですが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

◆教育長（竹内悟）では、中学校英語の教科用図書は光村図書の「Here We

Go!」に決定いたします。

◆教育長（竹内悟） それでは、「特別の教科 道徳」に移ります。道徳の報告書をご覧ください。これをもとに、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。各社の教科書には、どのような特徴が見られましたか。

◎指導課長（藤谷考志） どの教科書も、いじめ・情報モラル・多様性といった現代的な諸課題についても触れられており、工夫が見られました。

東京書籍は、いじめ問題と生命尊重の教材をそれぞれユニット化し、1つのテーマを集中して扱うことで道徳性を養う工夫がありました。また、小学校の道徳でなじみのある教材が中学校でも各学年1教材、配置されていました。

教育出版は、「いじめをなくそう」「いのちをかがやかせる」「つながり合って生きる」がユニットで配置されており、「つながり合って生きる」はSDGsの観点から考えを深めるよう工夫されていました。

光村図書は「いじめを許さない心について考える」ユニットが、全学年において6月に揃えて設定されていました。また、小学校道徳の定番教材を補充教材として掲載していました。

日本文教出版は、いじめについて、1年では6つの教材で3つのユニット、2年では7つの教材で2つのユニット、3年では6つの教材で2つのユニットが系統立てて配置されていました。また、別冊の道徳ノートがセットになっているのは特徴的です。

学研は、SNSにおけるいじめ問題に関する教材の取り扱いがあり、命の教育に重点が置かれた構成になっています。教材をユニット化することで重点的に学んだり、他教科等との関連や現代的な諸課題のテーマを意識して学んだりすることができるように配慮されていました。

あかつき教育図書は、全学年でいじめや情報モラル、キャリアなどが発達段階を考慮して取り扱われており、教材末尾の設問例を通して、身近な社会的課題を自分との関係において考え、解決しようとする意欲や態度を養うよう配慮されています。

日本教科書は、全単元の最後に「考えよう・深めよう」があり、考えを深めるための工夫発問がありました。また、「自由・幸福・愛」のテーマで哲学的視点を通して考えを深めるコラムの設定がありました。

◆教育委員（澤田久子） 今のお話の中で日本文教出版の道徳ノートが特徴的だと思いましたが、現場での使い勝手はいかがですか。

◎指導課長（藤谷考志） 道徳は教科化され、評価をする必要が生じたので児童生徒が授業を通してどのような考えを持ったのか、どのような気づきがあったのかを丁寧に見取る必要があります。各社、道徳ノートはなくても巻末等にふりかえりができる欄を設けていますが、別冊のノートがあることで、学びを振り返りやすいといえると考えております。

◆教育委員（澤田久子） 別冊になっているので、教師としては、この別冊のノートを集めて振り返れば、子ども達の評価をうまくできると思います。ただ、全ての教材について書かれているので、教員にとっては全て埋めなければならないや、保護者にとってはやっていない項目があると、この項目をやってないと風に感じることがあると思いますが、いかがでしょうか。

◆教育長（竹内悟） 少し話がずれますが、先生方の色々な話を聞いている中で、中学校である22項目を35時間、これは非常にやっぱり難しいです。いじめの取り組みについても、1時間で終わって良いかというところと全くそうではなく、22の内容項目の中で、それぞれの先生方が思うところがあり、人によっては、この項

目にすごく時間をかけたいという先生もおられるので、そういった気持ちを大事にしていきたいと思えます。ですから、内容項目に沿って、全部ができているかをきちんと把握できるかというところだと思っています。授業のやり方も本当に様々で、子ども達に、昔のやり方ではなかなか入っていかないの色々な工夫をしている先生方がたくさんおられます。私も道徳の研修会に参加し、講師の話の話を聞きましたが、研修の講師によってもこの教材は使いやすい、やりやすいということはあると思えます。教師側には、色々なやり方を身につけて欲しいと思えますし、一番大事なのは、道徳は文章評価しないといけなないので、その評価をどうしていくかということもすごく大きな課題です。先ほど道徳ノートの話が出ましたが、教師が評価をするときに振り返る意味では非常に使いやすいものだと思っています。ただそれに縛られずにワークシートでやっている先生もおられます。

先生方によってはですね、難しい選択の部分かと思えます。

◆教育委員（池島明子）別の視点ですが、二次元コードのコンテンツの特徴について教えていただけますか。

◎指導課長（藤谷考志）数が多かったのは、日本文教出版ですが、どの教科書も二次元コードのコンテンツは朗読や映像があり充実していました。道徳では文章以外から、視覚・聴覚的に読み物の状況を理解することは有効であると考えています。中でも東京書籍は、災害・防災に関してはVR映像が用意されているのが特徴的でした。

◆教育委員（西尾剛）先ほど小学校で恐らく使ったであろう教材を中学校で載せているという教科書があるとのことでしたが、その意図や効果はどうお考えですか。

◎指導課長（藤谷考志）東京書籍と光村図書で掲載されていましたが、小学校低学年で学習したことのある教材について、中学生の視点でもう一度考えてみることで、当時とは違った深い考え方や気づきが生まれるというねらいがあります。自分の成長を感じることもあるかもしれませんし、何より「答えが1つではない」という道徳の大切な部分に触れることにもつながります。また、小中連携・小中一貫教育の観点を踏まえて、同じ教材で児童生徒と一緒に学ぶ場面も想定されており。

◆教育長（竹内悟）中学校区の小学校と分離型の小中一貫教育を推進しております。その観点で、同じ題材というのは非常に大きなポイントになってきます。

◆教育委員（奥健一郎）先ほど、道徳という科目は答えが1つではないという話もありましたが、やはり科目の性質上わかりやすさが非常に重要なと私は思っています。そういう意味で、読み物教材として取り組みやすい題材ということ、また、その題材の中で状況を把握しやすい、挿絵や漫画を効果的に使っているという点で、非常に特色的なものは光村図書だという気はしました。

◆教育長（竹内悟）それでは、時間もございますので、ここで、道徳の採択をいたします。今の質疑と選定委員会の報告書をふまえて、光村図書がいいように思うのですが、いかがでしょうか。

【「異議なし」の声】

◆教育長（竹内悟）では、中学校道徳の教科用図書は光村図書の「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」に決定いたします。

※議案第34号可決

午後 1 2 時 3 5 分終了

議事録署名委員

教 育 長

教 育 委 員